

平成27年度 学校法人三幸学園 大宮スイーツ&カフェ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 前川祐一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 長山慎太郎 様

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スイーツ分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツ&カフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スイーツ分野として「美味しくてかわいいスイーツ&カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし人の心を豊かにする人材を育成する「全ては、お客様の笑顔とありがとうのために」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振り返り

【H27年度に定めた課題事項】

- ・教育理念や目指す人物育成像の指導の徹底
- ・退学率減少
- ・教職員の労務管理

《振り返り》

- ・退学率減少、目指す人物像に育成する為、全教職員の研修、情報共有が前年よりなされた
- ・教職員の残業の管理強化と業務の精査により労務環境が良くなり、学生に還元できる時間が増えた

【今後の目標】

- ・教職員の当たり前の実践
- ・意識改革(時間管理・挨拶・清掃等基本行動を教職員から見直し学生に還元する)
- ・労務管理の更なる徹底(残業時間の短縮)
- ・退学率 4%

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1

各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1
--	---	---	---	---

(1). 教育理念・目標

① 課題

- ・『教育理念、人材育成像』外部及び学生への浸透並びに、学生の成長

② 今後の改善方策

- ・HPや掲示物、教員によるたび重なる積極的な外部及び学生、保護者への目に留まる掲載と呼びかけ

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・学生自身が、どうなりたいかを考えて行動することは、重要な要素であり、学校と家庭の教育が融合できることが理想である。ポスターの掲示、入学前保護者会やホームページ等で記載し、引き続き運動して取り組んでほしい
- ・学生は、人物育成像まで深くは考えていないため、卒業生からアドバイスを直接聞くことで、意識できる。より学生に近い卒業生に、「社会に出てからの学生時代とのギャップ」を話してもらうべきである。
- ・教職員にビジョンやミッション、人物育成像が載っている手帳を持たせているのは素晴らしい

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	③	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・契約形態の整備、有期雇用無期雇用者の整理調整
- ・教職員の労務管理

② 今後の改善方策

- ・コンプライアンス遵守体制の確保
- ・労務管理体制の徹底

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・労務管理は、一般的な会社でも厳しい現状であり、飲食業においても残業代の支払い、休日管理など年々厳

しくなっている。更に今後も労務問題は厳しくなる為、学校運営においても重要視して取り組んでほしい。

- ・グーグル等でスケジュールを職場全員が閲覧できる状況をつくっている会社も多く、個人のスケジュールの把握も必要である。対象者の時間管理ができない場合は、上司に責任があるとされる為、さらにその上の上司と話し合い仕事内容も見直す必要がある。担任業務内容もしっかりと役職者は、把握する必要がある。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・学生の学びとなる、業界関連企業との産学連携の機会が少ない

② 今後の改善方策

- ・業界関連企業にヒアリングをかけ、産学連携を増やしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・学内店舗実習や企業様との商品開発など校内で実施している内容は評価できるが、学外での活動が学生の成長にはつながるため、今後も積極的に実施してほしい。
- ・アルバイトを実施しない学生が最近急増している。外部との関わりを増やさないと社会に出た時のギャップが大きくなってしまふ為、卒業生を活用し、社会活動のやりがいやアルバイトの重要性を話してもらうことが大切であ

る

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 課題

有効求人倍率の向上と各分野の就職先における人材ニーズに合わせた教育

② 今後の改善方策

求人や実習先の新規開拓とともに求める人材像のヒアリングと把握

③ 特記事項

特になし

⑤ 学校関係者評価委員コメント

- ・募集活動の中で他校との差別化を図り、エンタランスマネージメントを徹底し、学校教育の理解がある状況をつくり、退学者の低減をはかってほしい
- ・授業についていけない、積極的に授業に参加できない場合は、個別対応を心がけてほしい

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

就職支援に関しては担任が中心となり属人化しがちであり、卒業生に関しても各担任によるところが大きい。

② 今後の改善方策

- ・就職支援の各教員のレベルアップと卒業生のつながりを強化する。

③ 特記事項

- ・特になし

⑥ 学校関係者評価委員コメント

- ・仕事が忙しくて学校にいけない為、電話等でのフォロー体制が整うと良い
- ・違う業種の方と交流できる機会があると勉強になる

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・教室環境の見直し(冷暖房設備)
- ・災害時の避難場所や避難経路の周知が徹底されていない
- ・学生への指導(社会人の心構えや生活指導のレベル)が属人化されがち

② 今後の改善方策

- ・教室環境の定期的な見直し、管理徹底
- ・避難場所や施設管理の周知を強化する
- ・教職員の体系変更(新人担任の指導強化)

③ 特記事項

- ・特になし

③ 学校関係者評価委員コメント

- ・避難訓練は、全職員で実施することが望ましい

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 課題

- ・平日の実際の授業を見せる機会が提供できていない
- ・「技能と心の調和」の心の教育の大切さを伝え、見せる場が少ない

- ② 今後の改善方策
 - ・学校見学会、放課後の高校生と保護者向けイベントを増加
- ③ 特記事項
 - ・特になし
- ④ 学校関係者評価委員コメント
 - ・特段ないが、どの学校も厳しい状況にある

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

- ① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。
- ② 今後の改善方策
 - ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
 - ・規模の増加に対応するための人材の育成
- ③ 特記事項
 - 中長期的な財務基盤の安定について
 - ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
 - ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。
 - 予算および収支計画の有効性、妥当性について
 - ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
 - ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
 - ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。
 - 会計監査について
 - ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
 - ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。
 - 財務情報公開について
 - ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも

理解しやすい工夫を行っている。

③ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・自己評価の実施
- ・自己評価にもとづいた問題点の改善

② 今後の改善方策

- ・継続的实施
- ・問題点の明確な洗い出しと迅速な改善策の実践
- ・評価公表方法の明示

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員コメント

コンプライアンスは企業活動・学校運営においても非常に位置づけが高くなってきている
特に学校という場所は、世間からの見られ方が異なる為、適正な運営をはかってほしい

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

地域貢献・社会貢献に関する活動をする機会が少ない。

② 今後の改善方策

- ・地域住民をお招きしてのサロン開催日を増やす。
- ・学生に学び、成長のあるボランティア活動の増加

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

学内店舗実習での地域での認知度は高く、効果が見えにくいですが、今後も継続的に取り組んでほしい

以上